



# さい帯血バンクNow

第16号

http://www.j-cord.gr.jp/

## 移植1件10万円アップ

### 診療報酬改定で4月から

今春の診療報酬点数改定に関して2月、中央医療審議会(中医協)は厚生労働省に答申を出しましたが、さい帯血移植の点数を従来の2万6900点から1万点(金額で10万円)引き上げ、3万6900点とすることが明らかになりました。この上乗せ分は、「さい帯血の管理に係る費用等の一部評価分」として、さい帯血移植を行った移植医療機関からさい帯血を提供したさい帯血バンクへ支払われることになりました。これまで苦しい財政運営を強いられてきた日本さい帯血バンクネットワークを構成する11のさい帯血バンクにとっては、朗報です。

## 加算分は各さい帯血バンクへ

### 潤沢でない補助金

さい帯血の採取と保存については、国庫補助を受けながら事業を行っています。これまで補助金は決して潤沢ではありませんでした。このため各さい帯血バンクは、いずれも赤字財政を抱えながらも、患者に負担を求めることなく、さい帯血移植を必要とする患者さんのためにさい帯血を提供してきました。こうした経営状況を改善するために、日本さい

帯血バンクネットワークでは、移植に使われるさい帯血に保険点数をつけてもらえるように国に要望を重ねてきました。

### 要望内容満たさず

要望内容とは違う形にはなりましたが、今回の改定は中医協の論議で既存技術等の評価項目の中に、骨髓移植・さい帯血移植に際し、患者負担の軽減やさい帯血バンクの経営改善のために見直しを行うことが明記

され、点数の加算につながりました。

### 課長通知を発出へ

現実的には、今回の改定ではさい帯血移植術として、1万点が上乗せされました。これは手技料として移植を行った医療機関に支払われるものですが、今回の加算分は移植医療機関から各さい帯血バンクへ支払われることとなります。このため、その旨の厚生労働省保険局医療課長通知が近く発出されることを、臓器移植対策室長の塚本力室長が2月29日の骨髓バンク・さい帯血バンク合同公開フォーラムの場で明らかにしました。

### 骨髓も1万点加算

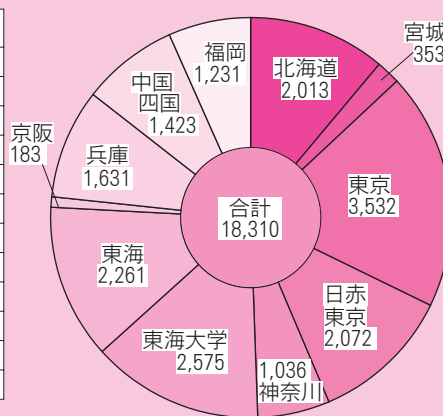
なお、骨髓移植も患者負担金軽減のために、同様に3万7600点から4万7600点へと1万点加算されました。国の財政が厳しい状況にあって、今回のさい帯血移植に関連する保険改定は、評価できるものといえるでしょう。

しかしながら、私たちの要望内容とは隔たりがあることも認識しなければなりません。

●各バンクの移植(供給)数

バンク名	~02年度	03年度	合計
北海道	168(171)	101(105)	269(276)
宮城	1(1)	5(5)	6(6)
東京	162(163)	95(101)	257(264)
日赤東京	62(66)	112(117)	174(183)
神奈川	66(68)	17(19)	83(87)
東海大学	114(122)	119(115)	233(242)
東海	140(142)	55(56)	195(198)
京阪	-( )	4(5)	4(5)
兵庫	135(144)	89(90)	224(234)
中国四国	24(25)	29(30)	53(55)
福岡	25(28)	11(12)	36(40)
合計	897(930)	637(655)	1534(1590)

●保存さい帯血の公開数



【注】①表とグラフのデータは、2004年2月末現在。

②表の数字はカッコ外が移植数、カッコ内が供給数。

③移植数は使用数であり、複数さい帯血同時移植(2本のさい帯血を同時に移植)が8例行われているため、累計実移植実施数は1526例。

複数さい帯血同時移植は、02年度3月、03年度4月、5月、7月、10月、2月に実施。

さい帯血  
移植例数

## 2003年は588例

## 最近6カ月では骨髄移植をしのぐ

最近のさい帯血移植の症例数が順調に増えていることは、本誌でもこれまでに伝えてきていますが、2003年は前年より飛躍的に2倍以上も増えました。この傾向は今年に入っても継続していて、最近6カ月間の移植数を比較すると、骨髄バンクを介した骨髄移植をついに超える状況になっています。

昨年1年間で、日本さい帯血バンクネットワークに参加する11のさい帯血バンクが供給したさい帯血を用いて行われたさい帯血移植は588例（海外への提供2例のため、国内は586例）となりました。前年の2002年は269例でしたから、およそ2.2倍に増加したことになります。

一方で、骨髄バンクのドナーが骨髄を提供して行われた骨髄移植は年間730例でした。こちらは前年の758例よりも減少しました。また、骨髄バンクの移植数は海外の患者さんへ提供された症例も含まれているため、昨年の730例のうち日本国内の患者さんの移植に限ると704例というこ

とになります。非血縁者間の造血幹細胞移植においては、さい帯血バンクと骨髄バンクは症例数に限っては肩を並べるところにまできました。

さい帯血移植の症例が急増している状況は、今年に入ってもさらに継続しています。昨年9月から今年2月までの最近の6カ月間だけを見てみますと、さい帯血移植は384例

（海外提供は0）、骨髄移植は360例（海外への提供を含む）となっていて、ついにさい帯血移植が骨髄移植をしのぐ数になっています。

こうした傾向はまだしばらくは続きそうな状況です。わが国のさい帯血移植は、本年2月末現在で1526例ですから、今年秋にも2000例を突破する勢いです。

成績解析は今後に 厚労省研究班  
シンポジウム

2月28日、東京慈恵会医科大学で「厚生労働科学研究 ヒトゲノム・再生医療研究事業」の四研究班合同公開シンポジウムが開かれました。このシンポジウムで、さい帯血移植関連の報告もありましたので、その一部を簡単にお伝えします。

「我が国における臍帯血移植」と題する東海大学医学部の加藤俊一氏の報告は、さい帯血移植全般にわたるものでした。

移植成績の一例として、小児の急性白血病の無病生存率は、スタンダードリスク（標準危険群）では53.5%ですが、ハイリスク（高危険群）では17%程度に落ちるという報告がありました。成人患者のさい帯血移植の無病生存率は、トータルではスタンダードリスクで25.5%、ハイリスクで18.2%と低くなっていますが、移植医療機関による成績の違いが顕著で、東大医科研グループではスタンダードリスクで91.3%、ハイリスクでも57.3%と非常に良い成績を上げていることも紹介されました。また、さい帯血を用いたミニ移植では虎の門病院の成績が示されました。対象は高齢者（中央値58.5歳）で、

スタンダードリスクならば80%の生存率であることが紹介されました。

現在、さい帯血バンクが提供している患者さんの4割は50歳以上ですから、多くの患者さんにミニ移植が行われているものと思われますが、このシンポジウムでは国立がんセンター中央病院の高上洋一氏から「ミニ移植臨床試験の概要」という報告もありました。通常の移植では厳しい前処置を行いますが、ミニ移植は前処置を軽くして移植患者の負担も軽減しようというものです。前処置で悪い細胞を徹底的にたたくのではなく、同種移植の免疫反応を利用して、悪い細胞を駆逐しようという考え方です。高上氏によると、ミニ移植で拒絶はほとんどなく、GVHDも通常の移植と同等で、再発も増えるおそれはないとのことでした。

なお、さい帯血移植はまだ歴史が浅く、最近では症例が急増しているとはいえ、長期の観察が欠かせない移植成績の解析は、これからの作業ということになりそうです。さい帯血移植と他の造血幹細胞移植との成績の比較などは、まだもう少し時間経過を経てからということになります。

## ■非血縁者間さい帯血移植数の推移

1997年	13例
1998年	62例
1999年	105例
2000年	161例
2001年	200例
2002年	269例
2003年	588例

累計 1,398例

■最近半年間の非血縁者間移植数  
さい帯血 骨髄

2003年 9月	67	60
2003年10月	67	85
2003年11月	71	65
2003年12月	51	39
2004年 1月	64	56
2004年 2月	64	55
合計	384	360

# 「元気を取り戻した」患者家族からの手紙 善意で支えられた生命 いつの日か息子に伝えたい

東海臍帯血バンクに昨年、送られてきた患者さんの親御さんからの手紙を紹介します。なお句読点、文字遣いともほぼ原文のママです。

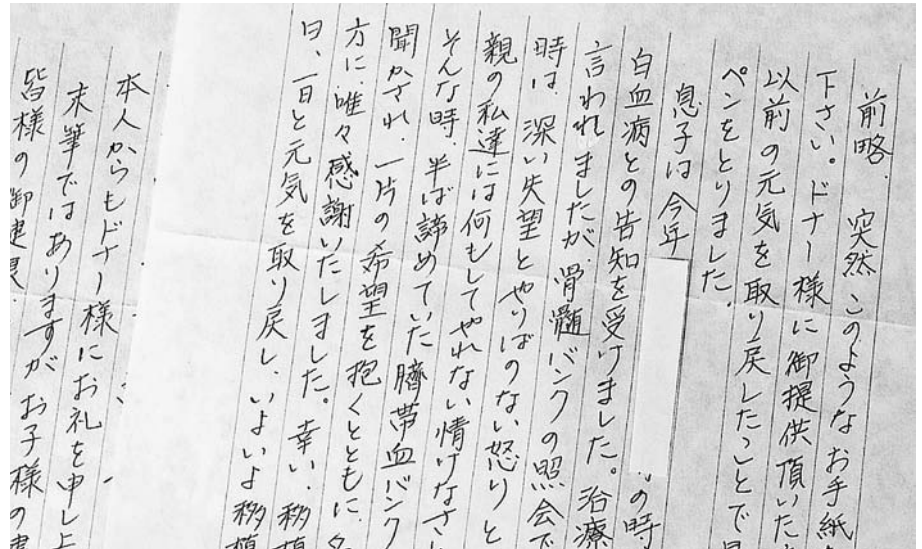
## 前略

突然このようなお手紙を差し上げますことご容赦下さい。ドナー様に御提供頂いた臍帯血によって私共の息子が以前の元気を取り戻したことで是非お礼を申し上げたいと思ひペンをとりました。

## 絶望が希望に変化

息子は今年……の時発病し、白血病との告知を受けました。治療は早期の骨髄移植しかないと言われてましたが、骨髄バンクの照会で適合者が見つからなかった時は、深い失望とやりばのない怒りとで押し潰されそうでした。

親の私達には何もしてやれない情けなさ絶望感でいっぱいでした。そんな時、半ば諦めていた臍帯血バンクで適合する血液があったと聞かされ、一片の希望を抱くとともに、



名古屋の名も知らぬドナーの方に唯々感謝いたしました。幸い、移植後大きな問題もなく、日、一日と元気を取り戻し、いよいよ移植した病院を退院することになりました。

## できれば会いたい

すべて、ドナー様やドクター、スタッフの方々の御陰です。本来ならば、お会いしてお礼を申し上げるべきところですが、ドナーとレシピエントは、互いに素姓を知ることが許されないという事情ゆえ、このような形でお礼を申し上げることをお赦

して下さい。本当にありがとうございます。息子が成長し物心がついたら、いつの日か、君の生命は善意の人によって助けられ、多くの人によって支えられてきたのだと話してやりたいと思います。そして願わくば本人からもドナー様にお礼を申し上げられる日がくればと思っています。

## ドナーの成長祈る

末筆ではありますが、お子様の健やかな御成長と御家族の皆様の御健康、ご活躍をお祈り申し上げます。

敬具



すこやかに、幸せに。

明日への夢、描きたい。

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療機器を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。

**NIPRO**

ニプロ株式会社  
大阪市北区本庄西3丁目9番3号



# あんな委員会 こんな部会⑤ 危機管理マニュアル作成小委員会



小委員長・東 寛

日本さい帯血バンクネットワークの危機管理マニュアルの素案作成が危機管理マニュアル作成小委員会

(筆者を含めて5人+事務局で構成)で進められています。

ネットワークのサーバには、全国に11あるさい帯血バンクに保存されているさい帯血の詳細なデータが集積されています。全国の移植医は、さい帯血の検索にあたって、ネットワークのデータバンクにアクセスし、患者に最適なさい帯血が保存されているバンク、およびそのさい帯血に関する詳細なデータを知ることができます。この検索システムがネットワークの

最も重要な部分であると言えます。ちなみに、1カ月当たりの詳細検索の件数は平成15年度に入って今までの2倍近く(約500件/月)に増加しています。

したがって、この検索システムが機能しなくなるといった事態は極力避けなければなりません。そのためにはこういった危機発生の防止対策や、万一そのような事態が発生した場合の対応の手順をあらかじめ作成しておく必要があります。以前からの懸案事項となっております。ネットワークのコンピューターシステムも近く新しいものに代わることから、ネットワークのための危機管理マニュアルを整備する良い機会であると思っています。

一方、個々のバンクに視点移すと、ネットワークを構成してい

る11のバンクは、本来それぞれ独立したものです。したがって各バンクの危機管理体制の整備(さい帯血の保存や個人情報の管理等)は各々のバンクの責任で行うのが、実情に合った考え方であると思います。

しかしながら、有機的な存在であるネットワークの危機管理と絡んでくる事象もあり、そのような事象はあらかじめマニュアルに組み込んでおくと共に、新たに問題となった事象を積極的にマニュアルに取り入れる仕組みも必要であると思っています。

素案は近いうちにまとめ上げたいと考えています。とにかく危機管理体制が整っていないという危機をできるかぎり早急に解消したいものです。(北海道赤十字血液センター研究部長)

さい帯血ネットワークの現状を報告する  
野村事業運営委員長



## 合同公開フォーラムに初参加

骨髄バンク・さい帯血バンク合同の「激論! 明日の造血幹細胞移植を考える」と銘打った公開フォーラムが2月29日、東京・西新宿の全労済東京会館で行われました。さい帯血バンクネットワークはこのフォーラムには初めての参加でしたが、骨髄バンクでは過去5回にわたって行われており、毎回熱い議論が交わされています。

まず、各種の造血幹細胞移植の現状と、骨髄バンク・さい帯血バンク

の現状についての基調報告があり、先般さい帯血バンクネットワークで作成したDVDの上映が行われ、討論のための基礎知識を得ました。つづいて三田村真(全国骨髄バンク推進連絡協議会)、須藤晃(骨髄移植推進財団)、陽田秀夫(さい帯血バンクネットワーク)の3氏の進行のもとに、さい帯血移植や骨髄移植を経験した患者さんや医療関係者、ボランティアが約160人参加しての討論は、5時間にわたりました。

テーマは「治療成績・コーディネーター期間・費用から見た骨髄バンク、さい帯血バンク」「ドナープールは30万人(骨髄)、2万件(さい帯)で良いのか?」「骨髄バンクとさい帯血バンクは一つになるべきか?」で、それぞれについて利用者から見た両バンクがどのようにあるべきかが話し合われました。

### ご寄付をいただきました

温かいお心ありがとうございます。  
三品雅義様(愛知県) 10,000円  
匿名(広島県) 50,000円  
庭野光世様(静岡県) 10,000円

### 善意をお待ちしています。

日本さい帯血バンクネットワークでは、広く皆様からの善意を受け付けております。ご寄付はすべてさい帯血バンク事業のために使われます。  
＜寄付受け付け専用口座＞  
郵便振替口座番号 00180-9-57390  
口座名義：日本さい帯血バンクネットワーク